

「市民連合えひめ勝手連」誕生

山口二郎さんを囲んで(4/2)



長きにわたり自公政権が独占する一強政治は変えるべきです。なぜなら権力は腐敗するし、暴走もするからです。モリ・カケ・サクラはその象徴です。

3月21日、昨年の衆議院選挙で勝手連的に応援した人たちが集まって、政党や組織に頼らない一人ひとりの市民が行動するために、「市民連合えひめ勝手連」を立ち上げました。会の目的は《2021年9月に「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」と立憲野党が合意した「政策協定」を支持・発展させ、政権交代を目指して、国政選挙において 同協定に賛同する候補者を支援すること》です。

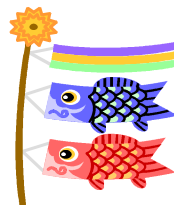
4月2日、市民連合の呼びかけ人の山口二郎さん(法政大学法学部教授)をお招きし、「参院選をどう戦うか、戦争危機の中で」と題して、お話いただきました。

参議院議員選挙は、政権選択選挙ではなく、政府与党に対するチェックと牽制であり、争点とすべき政策として、①日本国憲法に基づく平和国家路線の堅持と発展 ②暮らしと命を守るための政策の拡充 ③気候正義の実現とエネルギー転換 ④ジェンダー平等の実現と人権保障の徹底があげられました。

残念ながら、ウクライナで多くの罪のない市民が殺される惨状を目にしても、なお核武装や軍備増強を声高にする人たちがいます。武力に武力で対抗すれば、その先は多くの命が奪われます。私たちは市民を犠牲にするいかなる戦争にも反対したいです。コロナ禍で心落ち着かない日々ですが、参議院選挙では、平和と民主主義をまもるために、一緒に声を上げましょう。

お知らせ

- 5・3愛媛憲法集会
5月3日(火/祝日) 松山市総合コミュニティセンター・カメラシアホール
10:50~ 平和の広場
13:30~ 記念講演 半田 滋さん
「台湾有事で踏み越える専守防衛~敵基地攻撃と日米一体化」
15:40~ 憲法アピールパレード
連絡先: 2022「5・3愛媛憲法集会」実行委員会 (☎ 089-913-0448)
- 「ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記」上映会
5月5日(木) 12:00~ 14:30~ 17:00~ (106分)
愛媛県県民文化会館・サブホール 一般: 1000円
連絡先: 愛媛~沖縄・ゆいまーる (☎ 090-3783-8332 阿部さん)
- おきなわフェスタ in 四国2022
5月5日(木)、5月6日(金) 愛媛県県民文化会館
飲食・物産・展示ブース(入場無料) 沖縄ゲストライブ(有料)
連絡先: おきなわフェスタ in 四国実行委員会 (☎ 089-986-7668)
- 伊方原発をとめる会 第12回定期総会
5月29日(日) 13:30~ コムズ5階大会議室
記念講演: 大島堅一さん「原発と経済とエネルギー (仮題)」
連絡先: 伊方原発をとめる会 (☎ 089-948-9990)



生き活き政治ネット
松山市衣山2-4-47、2F
TEL/FAX 089-924-2485
ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp
2022年4月25日発行

松山市議会議員選挙 市民派の議席まもりました!



梶原時義さん 田淵紀子さん
当選おめでとうございます!

4月24日に行われた松山市議会議員選挙では、定数43議席に対して、新人17人を含む52人が立候補しました。武井たか子を支える会で応援した「市民派」、4期目の梶原さんの得票数は2819票、2期目の田淵さんは2628票でした。これから4年間、松山市政を厳しくチェックするため、お二人の活躍に大いに期待します。

今回の市議選では、13人の女性が立候補し、そのなかの11人が当選、女性議員が4分の1を占めることになりました。喜ばしいことですが、一方、投票率は39.45%で過去最低! これは衝撃的な数字です。政治への不信、無関心の現れでしょうか、深刻な問題だと思います。

政治と女性キャンペーンに寄せて

3月13日(日)、松山市駅前坊っちゃん広場にて、「女性と政治キャンペーン」を行いました。3月8日の国際女性デーによせて行っている、「議会に女性をおくる会」の春の恒例行事です。鮮やかなピンクの幟を立て、シンボルの花・ミモザをあしらったチラシを配りながら、「もっと女性議員を増やしましょう!」と訴えました。コロナ禍の中ながら、13名の参加。その中に、国会議員1名・県会議員1名・松山市議会議員3名の参加があったことは、会の発足当時を思うと隔世の感があります(当時は、県にも国にも、女性議員はゼロでしたから!).

女性議員の必要は、徐々には認知されてきています。それはチラシを受け取ってくれる人の反応からも感じることができました。だけど! あまりに遅々たる歩み! このペースのままなら、議会に男女差がなくなるのは、一体いつのことでしょう!

今、世界はウクライナを戦場とした危機に見舞われています。伝えられる戦況の悲惨さは目を覆わんばかり、当事国や対応する国々の政策には「人は、こんなにも闘いたいのか!」と驚くばかりです。このままでは第三次世界大戦が...などと言いつつ、自ら前のめりにのめり込んで行くようにしかみえません。戦争を絶対悪として平和に向けて舵をきらねば、と、もどかしい気分で、もし権力の場に半数の女性がいたならば...と思わずにはいられません。

そんななか、4月24日の松山市議会議員選挙でようやく女性議員が二桁となりました。当会会員の田淵紀子さんを含む11名(前回7名)、さらにLGBTQの方一名が当選です。まずは私たちの足下から、ですね! 7月の参議院選挙には、たかみちかさんが立候補されます。タレントから生活者としての視点を得ての決意表明に心からのエールを送ります。

追記* キャンペーン参加13名のうちの男性一名は、小池清治さん。先日、突然の訃報が届きました。心からご冥福をお祈りするとともに、平和のための活動に努力を惜しまなかった小池さんに、来る選挙でもよい結果を報告したいものだと思います。

大早 直美(議会に女性をおくる会会員)



広場で配布したチラシ

適応するかさもなくば死か？ — IPCC報告書

この春、6年ぶりにIPCC（国連気候変動に関する政府間パネル、Intergovernmental Panel on Climate Change）第二と第三作業部会の報告書が公表されました。第二作業部会報告書の説明では「適応するかさもなくば…（死か）」と題したニュース記事もありました。

グテーレス国連事務総長は、公表を受けて「現在、気候変動対策への投資の大部分が、適応策（気候変動の影響に備え、適応すること）よりも緩和策（排出量の削減）に向けられている」と強調し、「適応策への投資は、同等の力と緊急性をもって追求されなければならない」と述べました。

適応策とは、異常豪雨への対応、干ばつによる水不足、熱中症対策、海面上昇への対応などなど、日本国内でも行われているとは到底言えません。

また4月4日には、第三作業部会報告書も公表されました。1.5℃安定化というグラスゴーCOP26会議で強化されたパリ協定公約は、2030年までに世界全体でCO2排出量を半減するという即時の大幅削減が出来なければ、もはや達成できない、つまりもう後がないという内容でした。

おなじくグテーレス事務総長は、この日の記者会見にビデオメッセージを送り、その中で、一部の大排出国と企業は排出削減を公約しながら「嘘つき」で、「新たに化石燃料に投資することは、道徳的にも経済的にも狂気の沙汰だ」と批判しました。嘘つきという激しい言葉を使うのは、気候交渉に失敗すれば国連が崩壊しかねないという危機感を持っているからでしょう。嘘を言っていると批判されている国には、石炭火力廃止を公約できない日本政府が含まれるでしょう。



3月25日世界気候アクション

その2つの報告書公表の合間の、3月25日金曜日には半年ぶりのキャンペーン「四国もがんばります！世界気候アクション0325」を愛媛の地でも企画、実行しました。

グレタ・トゥーンベリさんが呼びかけて始まった世界各地の若者グループ「未来のための金曜日FFF」が呼びかけたキャンペーンに対して、武井県議も呼びかけ人になっている「気候非常事態宣言・自治体議員の会」が、写真を登録して全国で紹介する、という企画を呼びかけたものに、愛媛でも応えたものでした。

当日はまず、四国電力の西条火力発電所前で集まり

写真を撮り、夕方には四国電力原子力本部に申し入れ、最後に松山市駅前街頭宣伝をしました。

原発の全廃に続いて火力発電所の全廃計画スケジュールを作るよう求めた申し入れ書の文言は、こちら拙ブログ記事 <https://x.gd/cji8A> からご確認ください。第二作業部会報告書の内容についても触れた申し入れ書は、全国でも2ヶ所程度しかなかったと思います。

この取組みは、街宣部分だけ「愛媛新聞」にわずかながら取り上げていただきましたが、そもそもIPCCの6年ぶりの危機感溢れるメッセージ表現に対応したものにはならずじまだったのが残念でした。

小倉 正（XR四国、生き生き政治ネット世話人）

事務所は月曜から金曜の10時～16時に開けています。ご相談の方は事前にご連絡ください。

『人新世の「資本論」』読書会を終えて

私には耳新しい「人新世（ひとしんせい）」＝人類の経済活動が地球を破壊する時代＝という言葉は、地球の存続の危機に直面している時代を表現するものだったことを知りました。解決のヒントはマルクスの『資本論』にこそあるのだと、著者の若き経済学者 斎藤幸平は言います。

最近の気候変動には、誰しもがある種の危惧を抱いているわけですが、今やそんな悠長なことを言っている場合ではないと、彼は私たちに先制パンチを放ってきます。

欧米の気候学者、環境学者など専門家たちは、人類が従来の生産活動、生活様式を続ける限り、環境破壊を食い止めることはほぼ不可能だと言います。そこには産業革命以来の資本主義体制そのものが生み出してきた要因があり、暴力的な資本の論理こそ現代の環境破壊と貧困を生み出してきたのだと、斎藤は分析します。

現在、こうした経済活動を見直し、環境破壊を食い止めるために、国際社会が共通して達成すべき目標をSDGsとして掲げることになりましたが、この「緑の経済成長」で気候危機を乗り越えることができるのでしょうか。具体的には二酸化炭素の排出量を削減するために経済活動を抑制する、脱成長資本主義は可能かという問題が提起されていますが、著者の答えは否です。

その限界について、マルクスの『資本論』及びマルクスの残した膨大な資料を基にした研究から、資本主義そのものが矛盾を孕んでいる、そして自然破壊と抑圧される人々を抜きに資本主義は存在しないのだと喝破します。ゆえに資本主義から脱却し、コモン（社会的に人々に共有され、管理されるべき富のこと）を形成し、「脱成長のコミュニズム」を成し遂げることでしか、人類は本来の使用価値を生み出し自然と共生していくことはできない、と言います。この後半の件はまたの機会としましょう。

いずれにしても、ここで提起された問題を、私たちがどれほど自らのものとして捉えるかを、著者は問うているのでしょうか。著書の中で私たちのライフスタイルを「帝國的な生活様式」と断罪していますが、まことに耳の痛い話です。

もう40年以上も前の古い話で恐縮ですが、当時、合成洗剤の反対運動のおり、「生き方を変えよう」というスローガンを掲げました。自らの生活の仕方を見直すことから始めねばならないのではないかという問いかけでした。

世話人会メンバーの山中哲夫さんの発案で、昨年6月から始めた読書会もこの3月が最終章でしたが、それぞれに何かを残すことができたということで終わりたいと思います。

岩倉 浩元（生き生き政治ネット世話人）



小池清治さんのご冥福をお祈りいたします。



政治と女性キャンペーン
(3月13日)にて

4月5日、生き生き政治ネットの活動を力強く支えてくださった小池清治さんがお亡くなりになりました。くも膜下出血による突然の訃報でした。4月8日、68歳のお誕生日の日にご家族のみのご葬儀でした。夏の参議院選挙に向けて、たかみちかさんを応援するために、黄色いジャンパー姿でポスティングや街頭など、熱心に取り組みされていたようです。まだまだやりたいこともあったことと思います。私も一時呆然とし、今は心細い気持ちでいっぱいですが、小池さんの思いを受け止め、歩まなければならないと思っています。小池清治さん、ありがとうございました。あの笑顔で見守っててください。（武井）